

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

共立女子大学・共立女子短期大学  
2025年度入試 全学統一方式  
2025年1月26日(日)

# 国 語

## 注意事項

1. この問題冊子は15ページあります。

| 大問 | 科目  | ページ   | 選択方法 |                                    |
|----|-----|-------|------|------------------------------------|
| 一  | 現代文 | 1～5   | 必答問題 |                                    |
| 二  | 現代文 | 6～11  | 選択問題 | 選択問題は出願時に登録した問題、いずれか1問を選択し、解答しなさい。 |
| 三  | 古文  | 12～15 | 選択問題 |                                    |

2. 万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
3. 解答は全てマークシート解答用紙に記入すること。
4. 解答用紙には座席番号・氏名を必ず記入すること。
5. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 選択問題は出願時に登録した問題を解答すること。登録以外の問題を解答した場合は無効となります。
7. マークシート解答用紙の記入に当たっては、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用すること。
8. マークシート解答用紙に記載の「記入上の注意」をよく読んでから解答すること。
9. 解答は、マークシート解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

|    |
|----|
| 10 |
|----|

と表示のある問に対して㊦と解答する場合は、次の(例)のように、10の解答欄の㊦にマークしなさい。

(例)

| 解 答 欄 |                       |
|-------|-----------------------|
| 10    | ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ . . . . . |

10. 試験終了後、試験問題は持ち帰ること。

# 国語

| 大問 | 科目  | 選択方法 |                                    |
|----|-----|------|------------------------------------|
| 一  | 現代文 | 必答問題 |                                    |
| 二  | 現代文 | 選択問題 | 選択問題は出願時に登録した問題、いずれか1問を選択し、解答しなさい。 |
| 三  | 古文  | 選択問題 |                                    |

(必答問題)

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(解答番号は

1

20)

イギリスのある考古学者が、一般向けに書かれた入モン書<sup>①</sup>の結論として、こんなことを書いていた。

「誰でもなろうと思えば、考古学者になることはできます。ただし、それでお金持ちになろうなどとは思わないように。」

現実の考古学者は、<sup>注1</sup>インデイ・ジョーンズではない。考古学が宝探しでないことくらいは誰にもわかるはずだが、そこにまぶされた夢やロマンの味付けは相当にしつこいようだ。おそらく<sup>注2</sup>帝国主義や植民地主義の時代に発展した、「失われた文明」探しとしての考古学の影が、まだ強く尾を引いているということだろう。特にエジプトやギリシアといった古代文明の発掘が、娯楽映画にとって格好の題材だったことも大きく影響している。共通しているのは、地底の暗闇から、忘れられていた過去が救い出されるというイメージである。

このイメージはいくつかの点で誤解を招きやすい。「I」過去は必ずしも地底に眠っているわけではない。物質としての過去がすべてわたしたちが生きている現在にある以上、考古学の現場は<sup>②</sup>「ヘン」<sup>③</sup>存在していると考えるべきである。忘れられているという点では、南米の密林に埋もれている遺跡よりも深刻な状況はいくらでもある。すぐそこにあるにもかかわらず、誰も行かない場所<sup>④</sup>こそ、消滅の速度は大きいのである。

たとえば中国のアーティスト海波の作品は、写真というもつともありふれたものが、<sup>①</sup>その場所への入口となることを教えている。『They』のシリーズは中国の文化革命時代に写真館で撮影された記念写真を出発点<sup>②</sup>にしている。作家は行方の知れない被写体の後を追跡して探し出し、かつてと同じような構図で撮影する。こうして過去と現在が二枚並べられて展示されるシリーズであるが、それだけなら写真史にいくらでもある再撮影プロジェクトと変わるところはない。

海波の作品の重要な点のひとつは、記念写真がグループという点にある。時代の激動のなかでほとんどの成員はバラバラになり、

お互いの連ラクがない場合も多いだろう。被写体の全員が揃うこともあれば、そうでない場合も出てくる。およそ三〇年後にとられた写真には、こうして空席が生まれる。三〇年前の写真にはなかった、不在が写されることになるのである。

写真とは、いずれのある時に不在になるということを、先回りして記録してしまう技術である。言い換えれば、写真はすべからず、いつの日か遺影になる。<sup>注4</sup> ジャン・ボードリヤールは写真を、消滅を前提にした行為であると明言したが、逆に撮影という行為によって、消滅という経験の中身が明らかになることもある。もし最初の写真がなかったら再撮影はありえないし、「Ⅱ」再撮影が一〇〇年後であったら、ひとりも揃うことはない。消滅も記憶も、ひとつのプロセスである。海波の作品は消滅が **a** 的なプロセスであり、そこに写真が深く関与していることを示している。

\*

インディ・ジョーンズ的なイメージが与えるもうひとつの誤解は、「失われた過去を救い出す」というシナリオである。考古学が、発掘された過去の研究と保存において、大きな役割をもっていることは確かであるし、いわゆる「世界遺産」への登録が、人類共有の財産のために効果があることも否定はできない。「Ⅲ」<sup>注5</sup>、考古学にはメフィストフェレス的な面があることを指摘しておきたい。

これは過去の **b** 的な配置にかかわる問題である。一般的に、より古い時代へ遡ろうとすれば、その途中にある地層を掘って進まなければならない。目的にいたるまでの空間は掘り起こされ、巨大な山となる。土器のかけらや指先ほどの像を手にするため、何十トンという土が取り除かれるのが普通である。特定の過去に価値をみとめ、保存に優先順位をつけるのは、現在である。過去のすべてに同等の価値を与え、それを保存しようとするれば、どれだけ博物館を作っても足りないだろう。ある過去を保存するには、それ以外の過去の消滅を<sup>注4</sup> ヨウ認しなければならぬ。

その後の事態は、さらに深刻である。芸術誕生のもっとも劇的な例として、ラスコー洞窟の名を知らぬ者はいないだろう。フランス中部にあるこの洞窟は、二〇世紀半ばに発見されて以来、おびただしい数の観光客が訪れたが七〇年代に入って洞窟の表面に付着したカビの繁殖が問題になり、以降一般には閉鎖されて今日に至っている。その後、最先端の保存技術が投入されてきたが、

最新のニュースによれば、それでもカビの繁殖を食い止めることはできず、あの見事な彩色壁画も消滅する可能性が大きいと伝えられている。

これは日本の古墳壁画が辿っている運命と、c 的には同じであろう。発掘されたばかりに、消滅の危機に見舞われる。失われた過去を取り戻そうとする、その同じ身振りが、まったく逆の結果を招いてしまう。<sup>(3)</sup> 保存しようとするほど失われてゆくこのプロセスは、将来「ラスコーの悪夢」として記憶されることになるかもしれない。

この点から見ると宮永愛子の作品は、d 的な考古学と言えるかもしれない。作品が展示された瞬間から、消滅のプロセスが始まる。<sup>(5)</sup> カン賞者<sup>(5)</sup>にそのプロセスを食い止める力がないことはもちろんであるが、消滅しつつある物質がナフタリンによって作られていることも、われわれの無力さを象徴しているようにも見える。防虫剤として役に立つ物質そのものが、刻々と溶けて見えなくなってしまうのである。

「IV」それでおしまいではない。その後には、別のかたち姿を変えた物質が残る。かつて「靴」や「メガネ」という名前前で呼ばれていたモノたちが、いまは名づけようのないかたちで残る。それはすべて「かつて……だったもの」である。わたしたちはそこで、記憶のなかでしか名づけようのない「現在」を前にして、沈黙するのである。

(港千尋『書物の変——グーグルベルグの時代』による)

注1 インディ・ジョーンズ——同名のアメリカ映画の主人公。著名な学者で、考古学上の宝物を探して世界各地を冒険する。

注2 帝国主義や植民地主義の時代——一八世紀〜二〇世紀前半を指す。

注3 文化革命時代——中国で一九六〇年代半ばに起こった政治的・社会的動乱で、多数の犠牲者を出した。

注4 ジャン・ボードリヤール——現代フランスの哲学者。

注5 メフィストフェレス——中世ドイツの伝説に出てくる悪魔で、悪への誘惑者。

注6 宮永愛子の作品——宮永愛子は現代日本のアーティスト。常温で固体から気体に昇華するナフタリンを用いて制作されたオブジェで、変成というテーマを表現する。

問一 波線部①～⑤のカタカナと同じ漢字を、それぞれ次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は① 1、

- |                                                                                                                                                                                                                                                                      |         |       |       |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------|-------|-------|
| ② <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span> 、③ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span> 、④ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4</span> 、⑤ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5</span> 。 | ① ア 注モン | イ 破モン | ウ 質モン | エ 未モン |
|                                                                                                                                                                                                                                                                      | ② ア ヘン歴 | イ ヘン向 | ウ ヘン境 | エ ヘン成 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                      | ③ ア 陥ラク | イ 上ラク | ウ 脈ラク | エ 悦ラク |
|                                                                                                                                                                                                                                                                      | ④ ア 寛ヨウ | イ 需ヨウ | ウ 執ヨウ | エ 法ヨウ |
|                                                                                                                                                                                                                                                                      | ⑤ ア カン要 | イ カン奨 | ウ カン慢 | エ カン別 |

問二 空欄「Ⅰ」～「Ⅳ」に入る語を、それぞれ次のア～カから選んで、記号をマークしなさい。解答番号はⅠ 6、

- |                                                                                                                                                                                                     |       |         |          |        |      |      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|----------|--------|------|------|
| Ⅱ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</span> 、Ⅲ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8</span> 、Ⅳ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9</span> 。 | ア しかも | イ したがって | ウ それでもなお | エ それとも | オ まず | カ また |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|----------|--------|------|------|

問三 傍線部(1)が指示する内容としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 10。

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ア 物質としての過去が失われてしまった場所 | イ 誰も行けないほど消滅が進んだ場所 |
| ウ わたしたちに身近なすぐそこにある場所  | エ 忘れられた過去が埋没している場所 |

問四 傍線部(2)の意味としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 明らかに                    ① 全部                    ② 当然                    ③ やがて

問五 空欄 a 、 に入る語を、それぞれ次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は a 、

b , c , d .

- ア 基本                    ① 逆説                    ② 空間                    ③ 社会

問六 傍線部(3)のような状況を表す言葉としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は .

- ア アイロニー                    ① カタルシス                    ② リアリズム                    ③ ニヒリズム

問七 次の①～④に関して、問題文の内容と一致している場合はアを、一致していない場合はイを、それぞれマークしなさい。

解答番号は ① , ② , ③ , ④ .

① 近代以降の考古学は、インディ・ジョーンズ的なイメージの影響を受けながらも、埋もれた古代文明の発掘・保存に大きく貢献してきた。

② 人類にとって、ある特定の過去にだけ価値があるとは言いきれない以上、その保存に際して、現在の価値観で優先順位をつけるべきではない。

③ 写真というメディアは、被写体を記憶するための装置でありながら、不可逆的な時間の流れの中で、被写体を消滅させてしまう装置でもある。

④ 海波や宮永愛子の作品は、芸術のジャンルこそ異なるものの、両者とも時間とともに消滅するプロセスを表現活動の前提としている。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題)

一一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(解答番号は

21

く

41

)

言語が違えば文法も音韻も異なるのは当然であるが、そのような形式の問題以前に、それを母語とする人間の発想や思考の在り方自体に、しばしば際立った差の見られることがある。日常生活の何気ない行動一つにも、言葉によるおのずからなる性格づけがなされているのであるから、言語はその国民にとって生活文化ともいえる母なる大地であるわけだ。

その一つの表れとして、病氣見舞いに訪れた見舞い客の慰めの言葉をとり上げ、日本的受身の姿勢が色濃く現れている言語行動の例として、紹介してみよう。

中国人の見舞い客は、病人を慰めるのに、

やあ、顔色が良くないね。会社のことは私たちがちゃんとやっているから、安心してゆっくり休み給え!

と言う。その病人が日本人だったら、いきなり「顔色が良くない」などと言われて少なからぬショックを受けるにちがいない。そのうえ「会社のことは私たちがちゃんとやっているから、ゆっくり休め」などと聞いては、「もう君は必要ない」といわんばかりの言い方で、肩叩きをされると受け止めても仕方がない。これでは治る病氣も治らないだろう。精神的ダメージは極めて大きい。どうやら中国の見舞い方式は、対象である相手の状況を「I」に受け止めて、自己と結び付けずに、ただ相手のよりよい養生の在り方として客観的に述べる態度であるようだ。外の問題は、あくまで外のこととして、割り切った判断に徹する。そのような発想に裏打ちされているといってもいいだろう。

これに対し、日本人ならどのような見舞いの言葉をいうだろうか。恐らく、相手を励まし元気づけようとの心遣いから、次のよ

うな言い方をするにちがいない。

やあ、思ったより元気そうじゃないか。君が入院したと聞いて心配していたんだ。それに君が休んでいると仕事がとどこおって、皆、困っているんだよ。早く良くなって僕たちを安心させてくれ給え！

と。これは自己（私）の立場で、相手の病欠が自分らに痛手を与えたとして、その早い回復を促す「Ⅱ」といってよい。精神上・仕事上で影響を被ったという、はなはだ受身的な発想である。外の事柄を客体的な対象のうえでのことと冷めた目で傍観する態度ではなく、すべて内なる己と関係づけて、自己の問題として「a」にとらえる。まさに内側の視点での発想なのだ。たったこれだけの例で結論めいたことをいうのは危険かもしれないが、以上日中二つの見舞いの例を比較しても、対象である相手中心の「b」「判断に徹する中国の見舞い方式に比べ、日本人は、同じ他人の病欠に対しても、それを自己と結び付け、自分らの身に降りかかった問題として受身的にとらえようとする。その結果、自己側中心の判断や意見として述べる姿勢が生ずるものと考えられる。

本来、自分とは別の外の世界の出来事を、己に結び付け、いかにもその影響を被ったかのようにとらえる「被害者的発想」は、何も見舞いの言葉だけとは限らない。日本語独自の特異な文法現象としてよく指摘される「自動詞の受身」<sup>(2)</sup>なども、まさにその典型で、「雨に降られた」とか「子に先立たれる」「従業員に休まれてしまった」など、自分と無関係な「雨」や「子」「従業員」のうえに生じた予期せぬ現象を、己に降りかかった災難として受容する心理が、受身形という「受けの姿勢」を取らせているのである。これは「隣の空き地に高いビルを建てられてしまった」のような日照権侵害の他動詞の受身の場合も同じで、このような「迷惑の受身」<sup>(3)</sup>は、先の病氣見舞いの場合とまったく共通の、他者のうえに生じた予期せぬ現象や行為を己の側から受身的にとらえ、まごつき慌てる心理的な態度といえるであろう。それだけにドライな客観的叙述と違って、その折の己の感覚に飛び込んでくる外<sup>(4)</sup>の世界の出来事として、はなはだ具体的かつ臨場感に富んだ体験的叙述となるのである。それが日本語だといってよい。<sup>(5)</sup>

外の出来事を、外のこととして客観的に眺め、その外在する主体を中心にもをとらえる。それが中国の見舞い方式だとすれば、日本人の考え方は正反対で、外在する主体の行動や状況を己に結び付けて、それがどう自分に影響するか、自己を中心に、こちらから見た外の対象として描写する。外の状況に対し、話者の視点から受け止める姿勢を、あくまで崩していない。これは何も受身形式を取る表現にのみ限ったことではなく、日本語では、普通の叙述形態でも「Ⅲ」「Ⅳ」に立っての状況把握が当然のように行われている。

父は酒も煙草もたしなまない。外で宴会があつても八時ごろには帰ってきたし、夜は書齋で書見をするか書き物をしていた。朝は食事の前三十分、かならず書齋に鍵を掛け、ことりとも音がしなかった。<sup>(6)</sup>キリスト教徒であつた父は、お祈りをしていたが、どんな内容の祈りであつたか、知るよしもない。

(永井道雄『おやじ・永井柳太郎』)

初めの「……書齋で書見をするか書き物をしていた。朝は……書齋に鍵を掛け」の部分、明らかに目にした状況を傍観者として叙述している。客観的視点に徹するなら、そのあと「……書齋に鍵を掛け、ことりとも音をさせなかった」と、登場人物（おやじ永井柳太郎）の行動として視点を一貫させることになるだろう。しかし、「Ⅳ」「Ⅴ」側中心に眺めることが必ずしも日本語として自然だとは限らぬことは、先に述べたとおりである。「ことりとも音がしなかった」と、己の耳に聞こえてきた話者側の視点から、受動的にとらえた叙述が現れても、それはそれで日本語的な展開であると認めていいのではないか。客体界のこととして「音をさせる」と他動的意識に立つのも言語なら、「音がする」と自発的・受動的にとらえていくのも言語である。そして、どちらかという<sup>(7)</sup>と、後者のほうがより日本語的発想と考えられる。

(森田良行『日本人の発想、日本語の表現』による)

問一 傍線部(1)「言語はその国民にとって生活文化ともいえる母なる大地である」とあるが、どのような意味で「母なる大地」という表現が用いられていると考えられるか。その説明としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 21。

- ア 大地の上で言語が形成され、それが広く共有されている。
- イ われわれの何気ない生活文化も大地とともに作られている。
- ウ 言語と発想法は無関係でなく、生活文化の土台となっている。
- エ 母語は選択不可能であり、その呪縛から逃れることはできない。

問二 空欄「Ⅰ」に入る語を、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 22。

- ア ドライ                      ① ウエット                      ウ ポジティブ                      エ センシティブ

問三 空欄「Ⅱ」に入る語を、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 23。

- ア 利他主義型                      ① 同調圧力型                      ウ 自己主張型                      エ 共生願望型

問四 空欄「a」、「b」に入る語を、それぞれ次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は a 24、

b 25。

- ア 能動的                      ① 客観的                      ウ 受動的                      エ 他律的

問五 次の①～④のうち、傍線部(2)「自動詞」に該当するものはアを、傍線部(3)「他動詞」に該当するものはイを、それぞれ

マークしなさい。解答番号は ① 26、② 27、③ 28、④ 29。

- ① 泳ぐ                      ② 食べる                      ③ 走る                      ④ 浴びる

問六 次の①～④のうち、傍線部(4)「迷惑の受身」の用例として適切なものは①を、不適切なものは②を、それぞれマークしなさい。解答番号は① 、② 、③ 、④ 。

- ① 赤ん坊に一晩中泣かれた。
- ② 緊急避難勧告が解除された。
- ③ 面接官に英語能力を買われた。
- ④ 事故により一駅手前で降ろされた。

問七 傍線部(5)の内容としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 体験の質を頭において主観性を重んじて語る。
- イ 他者の体験との共感性を意識して抑制的に語る。
- ウ 体験の意味を十分に考えて聞き手を意識して語る。
- エ 身に降りかかった体験を自分の感覚に即して語る。

問八 空欄「Ⅲ」に入るもっとも適切なことばを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 受容者の側
- イ 表現者の側
- ウ 傍観者の側
- エ 当事者の側

問九 空欄「Ⅳ」に入るもっとも適切なことばを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 内在する主体
- イ 内在する客体
- ウ 外在する主体
- エ 外在する客体

問十 傍線部(6)「ことりとも音がしなかった」という表現が、なぜ傍線部(7)「日本語的発想」とつながるのか。その理由としてもっとも適切なものを、次の㉠～㉥から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 37。

- ㉠ 対象を一貫した主観的観点で述べているから。
- ㉡ 対象を自発的・能動的にとらえて述べているから。
- ㉢ 対象を他動的な意識にとらえて述べているから。
- ㉣ 対象を作中人物の意識から離れた視点で述べているから。

問十一 著者は、日本語の表現の特質をどう考えているか。次の①～④のうち、著者の考えに合致しているものは㉦を、そうで

ないものは㉧を、それぞれマークしなさい。解答番号は ① 38、② 39、③ 40、④ 41。

- ① 受身表現を好んで用いる日本語は主観的にならざるをえない。
- ② 話者の視点から語ることが受身表現の多さと結びついている。
- ③ ことばの運用の仕方に、おのずと日本人の国民性が表れている。
- ④ 聞き手との共通感覚を大切にすると日本語は臨場感を重視している。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題) 三 以下の問題文は、藤原俊成の歌学書『古来風躰抄』の一節である。よく読んで、後の問に答えなさい。(解答番

号は 21 )  
38 )

行基菩薩、<sup>注1</sup>まだ若くおはしける時、<sup>注2</sup>智光法師に論議にあひ給へりけるを、<sup>注3</sup>智光、少し驕慢の心にやありけん、若き敵にあひたりと思へる気色なりければ、歌をよみかけられける。

まぶくだが修行に出でし、<sup>(a)</sup>片袴我こそ縫ひしか<sup>(b)</sup>その片袴  
かく言はれて、「二生の人にこそおはしけれ」と帰伏しにけり。<sup>注5</sup>

この事は、行基菩薩の先の身に、大和国なりける長者など言ひけるは、国の大領などやうのものにやありけん。その家の娘のいみじくかしづきけるが、かたちなどいみじくをかしかりけるを、<sup>注7</sup>門守する女のありけるが、子にまぶくだといふ童ありけり。<sup>注8</sup>  
十七、八ばかりなりけるが、その家の娘をほのかに見て、人知れず病になりて、死ぬべくなりにける時、母の女そのよしをとひ聞きて、「我子生けて給ひてんや」と、洩らし言ひ入れたりければ、娘、「おほかたは安かるべきやうなる事なれど、むげにその童のさまにては、さすがなりぬべし。さるべからん寺に行きて、法師になりて、才ある僧になりて来たらん時あはむ」と言はせたりければ、かくと聞きて急ぎ出で立ちける。「童の着るべかりける袴は持て来、我縫ひて取らせん」と言ひければ、母の女、忍びて参らせたりけるを、片袴をなん縫ひて取らせたりける。

さて、寺に行きて、師につきて、学問を夜昼しければ、二、三年ばかりに、程なく、殊の外の智者になりけり。さて、後來たりければ、「今宵」と言ひてあひたりける程に、この娘、にはかに消え入るやうにてなくなりけり。法師、あさましく悲しく覚え、やがて寺に帰りて、道心深く起して、いよいよ尊くなりけるぞ、智光法師なりける。されど、わが童名まぶくだといふ事、僧の中には、さしも知らせざりけるを、年経て、行基といふ若き智者の出で来たりけるに、論議にあひたる程に、その昔の名をか

く言ひて、「我こそ縫ひしかその片袴」と言ひけるに、思ひ続ければ、「わがもと道心起し始めし女は、すなはち、この行基にこそおはしけれど、わが身を尊き僧となさんとて、しばしかりに、その女と生まれて見えたりける」と、心を得るに、いよいよ尊くめでたくも恥も覚えけるなり。善智識<sup>注9</sup>は、まことに大の因縁なるものなり。

注1 行基菩薩——奈良時代の高僧。諸国を巡行し、民衆の心を深くとらえた。後に大僧正（最高位の学僧）に任命された。

注2 智光法師——元興寺の僧。幼名を真福太丸<sup>まぶくだ</sup>という。

注3 論議——法会などで経文の意味について、問答したり論争したりする儀式。学僧の優劣を判断し、階級を定めた。

注4 片袴——旅行などに用いる短い袴。

注5 二生の人——前世も後世もともに人間に生まれてきた人。

注6 大領——郡の長官。

注7 門守——門番。

注8 童——年の若い召し使い。

注9 善智識——人を導いて仏道に入らせる高僧。

問一 傍線部(a)～(d)の語の説明としてふさわしいものを、それぞれ次のア～クから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

(a) 、(b) 、(c) 、(d) 。

- ア 動詞の未然形      イ 動詞の連用形      ウ 動詞の終止形      エ 助動詞の連用形  
 オ 助動詞の已然形      カ 副詞の一部      ク 形容動詞の一部

問二 で囲った「の」と同じ用法のものを、波線部ア～エの中から一つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

問三 二重傍線部A～Eの解釈としてもっとも適切なものを、それぞれ次の㉑～㉕から選んで、記号をマークしなさい。解答番号

は A 、B 、C 、D 、E 。

- A ㉑ まったく今のままの  
① ひどく落ちぶれた ㉕ 少しも愛想がない
- B ㉒ がまんして  
① 懐かしく思っ  
㉖ こっそりと
- C ㉓ 召し上がり  
① 参上し ㉗ 差し出し
- D ㉔ 情けなく  
① びっくりして ㉘ 気持ち悪く
- E ㉕ そのまま  
① しばらくして ㉙ やはり

問四 点線部I～Vの動作の主体としてもっとも適切なものを、それぞれ次の㉑～㉕から選んで、記号をマークしなさい（重複解

答可）。解答番号は I 、II 、III 、IV 、V 。

- ㉑ 大和の国の長者 ① 長者の娘 ㉕ 門番の女の息子
- ㉒ 大和の国の長者 ② 長者の娘 ㉖ 門番の女
- ㉓ 大和の国の長者 ③ 長者の娘 ㉗ 門番の女の息子
- ㉔ 大和の国の長者 ④ 長者の娘 ㉘ 門番の女
- ㉕ 大和の国の長者 ⑤ 長者の娘 ㉙ 門番の女の息子

問五 問題文の内容に合致しないものを、次の㉑～㉕の中から一つ選んで、その記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ㉑ 智光は長者の娘に一目ぼれして、恋わずらいのために死にそうになった。
- ㉒ 智光が仏道修行を始めたのは、長者の娘の働きかけによってであった。
- ㉓ 智光は修行し長者の娘のもとに戻ってきたが、娘はすでに死んでいた。
- ㉔ 智光は娘の死後寺に戻り、ますます修行に励み、尊い僧になった。
- ㉕ 智光は娘の死後寺に戻り、ますます修行に励み、尊い僧になった。

問六 太線部Xについて、智光が恥を感じた理由としてもっとも適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 37。

- ア 論議の場で行基が歌った歌の優美さに気づかなかったから。
- イ 論議で対決した行基を見くだすような態度を取ったから。
- ウ 女に生まれ変わって自分を誘惑した行基を軽蔑したから。
- エ 行基が自分の幼名を世間に広めたことに腹を立てたから。

問七 藤原俊成は平安後期から鎌倉初期にかけての歌人である。俊成の称揚した和歌の美的理念を、次のア～クの中から二つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 38。

- ア わび
- イ さび
- ウ 艶
- エ 花
- オ たおやめぶり
- カ ますらおぶり
- キ しおり
- ク あわれ